

東京芸術大学
130周年記念事業
全国美術・教育リサーチプロジェクト
-文化芸術基盤の拡大を目指して-

「何を知っているか、何が出来るか」

「知っていること・できることをどう使うか」

「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

東京芸術大学
130周年記念事業
全国美術・教育リサーチプロジェクト
-文化芸術基盤の拡大を目指して-

東京芸術大学130周年記念事業
全国美術・教育リサーチプロジェクト
-文化芸術基盤の拡大を目指して-

2017年11月17日(金)→12月3日(日)

東京芸術大学大学美術館3階 | 入場無料

開館時間: 9:30-17:00(入館は16:30まで)
※会期中の金・土曜日は20:00まで開館(入館は19:30まで)
休館日: 月曜日
主催: 東京芸術大学美術学部
後援: 文化庁
協力: 東京芸術大学美術学部杜の会
お問合わせ: 03-5777-8600(ハローダイヤル)
ウェブサイト: <http://research-project.geidai.ac.jp/>

ラウンドテーブル

「美術」において 育成すべき資質・能力とは？

—東京芸術大学教員と幼・小・中・高の教員による公開ディスカッション—

日時: 11月18日(土) 14:00-16:00

会場: 東京芸術大学大学美術館3F 展覧会会場内

パネリスト: 東京芸術大学各科教員、幼・小・中・高教員

※申込不要・参加費無料

学校教育法に基づき国が定める教育課程の基である学習指導要領等には育成すべき資質・能力が以下のような三つの柱で書かれている。

- 1) 「何を知っているか、何が出来るか(個別の知識・技能)」
- 2) 「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」
- 3) 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」

本ラウンドテーブルは、「美術」という教科においてこの三つの柱をいかに考えるかを中心に議論していく。

「日本・美術・教育」

日本における美術とは？教育とは？ その現状と課題、改善の方向性を 徹底議論する。

日時：11月17日（金）14:00-16:00

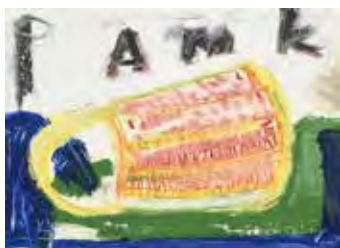
会場：東京藝術大学美術学部絵画棟1F大石膏室

※申込不要・参加費無料

パネリスト:

日比野克彦

(東京藝術大学美術学部長・先端芸術表現科教授)
1958年岐阜県生まれ。1984年東京藝術大学大学院美術研究科修了。2015年文化庁芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。現在:岐阜県美術館館長。東京都芸術文化評議委員。日本サッカー協会社会貢献委員長。



椿昇

(現代美術家/京造形芸術大学美術工芸学科長・教授)
日本を代表するコンテンポラリー・アーティストの一人であると同時に、卓越した教育者でもある。また、アートの新しい可能性を探る新しい実践も数多く、妙心寺退蔵院の襖絵プロジェクトや瀬戸内国際芸術祭のエリアディレクター、青森トリエンナーレ2018のディレクターを兼務する。



畠山直哉

(写真家/東京藝術大学大学院映像研究科教授)
1958年岩手県陸前高田市生まれ。筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了。東京を拠点に活動を行い、自然・都市・写真のかかわり合いに主眼をおいた作品を制作。国内外で数々の個展・グループ展に参加。2011年の東日本大震災以降は、故郷の陸前高田を扱った写真制作や発言を積極的に行っている。



橋本和幸

(東京藝術大学美術学部デザイン科教授)
1965年横浜市生まれ。東京藝術大学大学院修了。移動式住居で各地を巡るプロジェクトなど「暮らし」の観点から見つめ直したアートやデザイン、建築、映像などの領域を超えた活動をしている。同時期に上野公園で行われているTOKYO数寄フェスにも出品。



進行:

中村政人

(アーティスト/東京藝術大学美術学部絵画科油画教授)
1963年秋田県大館市生まれ。アートを介してコミュニティと産業を繋げ、文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくる社会派アーティスト。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。全国で地域再生型アートプロジェクトを展開し、2010年、民設民営の文化施設「アーツ千代田 3331」を創設。

